



山東省

(US3号品種、US13号品種、とよのか品種他)

今年の山東省の冷凍莓 IQFについては、昨年欧州で中国産イチゴを原因とする(ノロウイルス)食中毒問題が発生した経緯から、輸出に際しての各種検査に時間を要しています。この影響から一部農家は莓の生産意欲がわかず他の作物へ転作しており、栽培面積が大幅に減少している状況です。

また、冬季の大幅な気温低下、早春も続いた天候不順の影響で収穫は2週間程度遅れて開始され、5月に入ってから急激な気温上昇も報告されており、収穫期間が例年よりも短縮される事が懸念されます。これらの要因から、今期の収穫量は従来と比較し20%程度減産となる模様です。



山東省US13号品種露地栽培



収穫遅れ気味(5月15日撮影)

遼寧省

(スペインA品種、C果品種)

春先～4月の天候が低温で推移したため、収穫は例年より1週間程度遅れている状況です。両品種はハウス栽培のため、天候が作柄に与える影響は限定的と考えられますが、現時点では収穫が遅れた事により、青果向けの引き合いが強く、加工用原料の価格は高値で推移しています。

冷凍莓の価格提示は遅れていますが、現在の状況からは強含みでの推移は避けられない状況となっています。

(ハニー品種)

通常であれば5月下旬から収穫が開始されますが、4月の天候が低温で推移したため、例年よりも収穫時期が遅れ、6月上旬から収穫が開始される見込みです。



スペインA品種 果実写真(5月8日撮影)



C果品種 収穫遅れ気味(5月8日撮影)

中国政府は2015年まで毎年、前年比で最低賃金を13%以上上げる政策を取っており、工場の人件費は毎年高騰を続けています。現時点では両省共に青果での引き合いの強さと収穫遅れを主要因として、各パッカーのオファーが遅れ限定的なものとなっていますが、人件費の高騰、天候の影響、及び栽培面積の減少を要因に、今期の中国産冷凍莓は強含みにて推移する可能性が高いとみられます。

また、為替につきましても前期と比較して大幅に円安ドル高に振れている事もあり、最終的な販売価格での大幅な値上げは避けられない状況です。詳細につきましては、弊社営業担当者までご連絡ください。

